

札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト2024

～ 動物園・水族館を学びの場に～



2025年3月20日 環境省北海道環境パートナーシップオフィス (EPO北海道)

北海道地方ESD活動支援センター 久保田 学

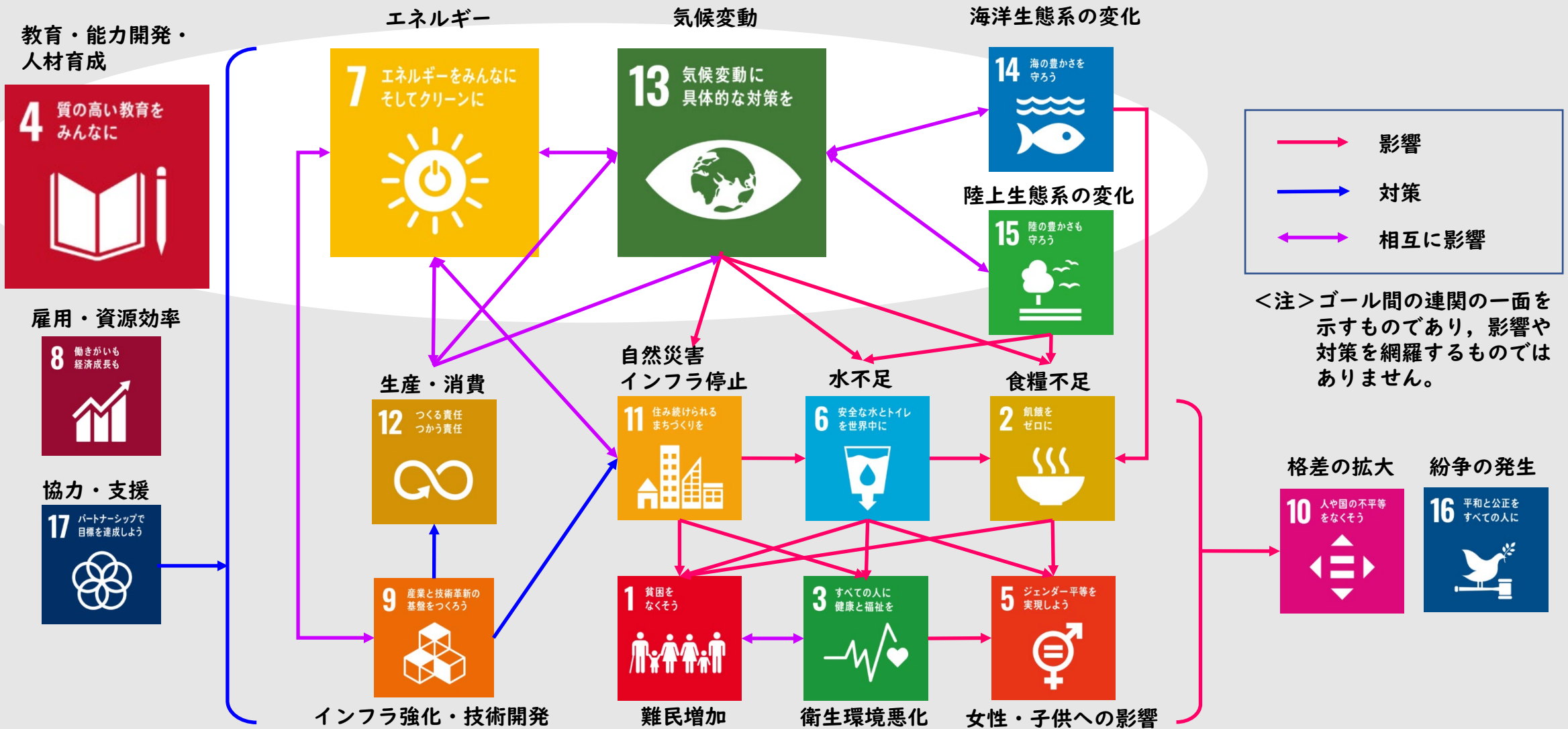
環境パートナーシップオフィス (EPO) とは？

- 環境省が8地方 (+中央) に設置し、各地の地方環境事務所と非営利団体が共同運営する環境教育やローカルSDGsの推進拠点
- EPO北海道 (2006年-) = 環境省北海道事務所 × 北海道環境財団
- 2017年～文部科学省・環境省が共同設置した「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の支援センターを兼ねる

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



気候変動を切り口に世界とくらしのつながりを学ぶ～気候変動教育



札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

ねらい

- 年間数十万人の来園者、スタッフの専門性、知名度などの強み活かし、生息地の環境変化や気候変動に関するメッセージを伝えていく
- 環境、サステナビリティについての対話・学びの場としての動物園の役割を定着させていく

動物園・水族館の役割 … ① 種の保存, ② 教育・環境教育, ③ 調査・研究, ④ レクリエーション

2023
作戦会議

- 関係者・実践者によるワークショップ（全3回）
- 動物園の魅力、可能性、取り組みのアイデアを整理
- フォーラムで成果を発信

2024
試行

- イベントでの発信 ～ アースデイへの参加
- 学校教育との連携 ～ 教員ワークショップの開催
- 飼育展示を活用した対話プログラムの実践（全3回）
- 道内動物園・水族館の環境教育実践状況等のヒアリング調査

2025
継続・定着

- 取組み継続に向けた仕組みづくり
- 道内他園館での可能性、今後の方針の検討

札幌市円山動物園の強み ~ 2023年度WSから

① 普段、気候変動・環境に必ずしも関心が高くない人たちがたくさん来園



若手子育て世代、市内外の学校・学年単位の子どもたちなどに直接メッセージが届く

② 生きた動物との出会い、触れ合う楽しみ



動物への好奇心・愛着をとおして遠い生息地の環境や未来への想像力を引き出せる

③ 年間約100万人の来場者と絶大な知名度



メディアや園外への発信力（影響力）が大きく、企業による支援・社会貢献や市の環境政策のショールームとして有用

④ 専門性を有するたくさんの職員



飼育現場のリアルや生息地調査等に基づくガイドが可能

⑤ 気候変動・エネルギー対策の取組・設備が豊富



次世代エネルギーパーク、園内の再エネ設備、堆肥化施設等、動物園の取組を生かしたプログラム・展示が可能
動物舎、売店、食堂等、今後活用できる施設も多数ある

⑥ 寄付や人材の受け入れ体制がある



動物園応援基金、さっぽろ円山動物園サポートクラブなど寄付の受け皿が存在し、ボランティアによるガイド・行事等も行われている。

取組み
の発信

第18回アースデイ in 円山動物園 「気候変動対策～私たちにできること～」出展

- 動物園の動物や円山の自然から「**人と動物、環境とのつながり**」を感じ、地球のことを考えることを目的として実行委員会が開催



第18回

アースデイ
in 円山動物園

2024年5月18日(土)19日(日) 10:00~16:00

●場 所/札幌市円山動物園 園内各所
(札幌市中央区宮ヶ丘3番地1)

●主 催/アースデイ in 円山動物園実行委員会 ●共 催/札幌市円山動物園
絵画コンクール表彰式を5/19(日)10時から行います。入園には所定の入園料金が必要となります。

北海道自然環境協議会、NPO法人札幌カラス研究所、動物実行委員会、動物食育センター、円山動物園ボランティアグループの会、+1宮プロジェクト、
いつでも世界を旅するカワサキ、環境教育研究所、円山動物園ボランティアグループ、札幌市環境局環境文化推進課、北海道教育大学旭川校環境教育研究センター、
団体一覧
ガールスカウト札幌地区協議会、エコチル推進北海道ユニットセンター、札幌トヨペット株式会社、ピースフレンド、一般社団法人日本自然文化協会、
K's Factory & らららめ、札幌美術館、つなぐ、動物園年賀状 菓子工房、ここもこ、羅女子大学プロジェクトももも、雪の神楽SNOW HOKKAIDO、
北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社札幌市立動物園、札幌市立動物園

動物園の気候変動教育を考える教員ワークショップ

- 学校教育から見た「**学びの場としての動物園**」を検討
- **札幌市環境副教材作成**ワーキンググループメンバー（小学校教諭7名）、札幌市教育委員会、札幌市環境政策課が参加
- 園内ガイドツアーの後で動物を切り口とするESDの可能性や副教材への反映を検討
- 副教材における動物園の取り上げ方、活用案とともに、電子化に向けた検討のきっかけにつながった



札幌市環境副教材



2024年8月6日開催

気候変動・生物多様性タウンミーティング in 円山動物園

- 動物展示を入り口に、生息地の環境変化や気候変動の影響、複雑性を知り、暮らしや社会・経済活動との関わりを考える対話の場として試行
- 各回ともスタッフの園内ガイド、生息地についての情報提供を経て、ファシリテーターの進行により 参加者同士で意見交換・交流

第1回 アムールトラ・ユキヒョウ編

- 2024年11月3日(土) 13:00~16:00
- 高山帯や寒帯林の環境、自然と共生する先住民の暮らし、人間活動や気候変動の直接・間接の影響による環境変化を学び、問題解決や動物園の役割について意見交換
- ゲスト: 伊藤健次さん(写真家)
工藤菜生さん(札幌市円山動物園)
- ファシリテーター: 長谷川友子さん
(対話の場づくり屋 SNUG)
- 参加: 19名



- 2024年11月16日(土) 13:00~16:00
- ゾウやオランウータンを通して熱帯雨林の開発と私たちの生活との関わりを伝え、パーム油を題材にエシカルな暮らし・経済の可能性について対話
- ゲスト: 八木亜紀子さん(NPO法人開発教育協会)
朝倉卓也さん(札幌市円山動物園)
- ファシリテーター: 長谷川友子さん(対話の場づくり屋 SNUG)
- 参加: 23名





- 2024年11月23日(土) 13:00~16:00
- 気候変動の影響を直接間接に受けている北海道の野生生物について考える場として開催
- ゲスト: 小林万里さん(東京農業大学)
菊池晏那さん(札幌市円山動物園)
長谷川理さん(NPO法人EnVision環境保全事務所)
- ファシリテーター: 佐竹輝洋さん(札幌市円山動物園)
- 参加: 26名



参加者の
声から

- 今日のガイドや説明を受けて、これまで興味関心が無かった
少なかった、とおっしゃる参加者が、強く危機感を持たれたり、
問いかけをされていた姿に感銘した。(第1回)
- 動物園という場所で体験と組み合わせることで、その印象や
自分ごととして考える動機づけが違うと感じました。(第2回)

道内主要動物園・水族館のヒアリング



ご清聴ありがとうございました